及び⑵に入れ、別に、メタノール（２→３）４mLを全量ピペットを用いて量り、試験管⑶に入れる。各管に２，７－ジオキシナフタリン試液10mLを全量ピペットを用いて加え、密栓し、よく混和した後、20分間放置する。次に、それぞれ２～３分間遠心分離した後、⑴及び⑵の上澄液につき、２，７－ジオキシナフタリン試液を添加した後、20～45分間に⑶の上澄液を対照液として、波長530nm付近の極大波長における吸光度A_T及びA_Sを測定する。

アンプロリウム（$C_{14}H_{19}ClN_4$・HCl）の量（mg）

＝アンプロリウム標準品の量（mg）$\times\frac{A_T}{A_S}$

b　エトパベート

含量　本品は、定量するとき、エトパベート（$C_{12}H_{15}NO_4$）95.0～103.0％を含む。

物理的・化学的性質

①　本品は、白色～微紅白色の粉末で、臭いはほとんどない。

②　本品は、クロロホルムに溶けやすく、メタノール又はエタノールにやや溶けやすく、エーテルに極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。

確認試験

①　本品のメタノール溶液（１→125,000）につき、吸収スペクトルを測定するとき、波長266～270nm及び297～301nmに吸収の極大を示し、波長236～240nm及び285～289nmに吸収の極小を示す。

②　本品及びエトパベート標準品を乾燥し、それぞれ赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定し、スペクトルを比較するとき、両者の吸収は、同一波数のところに認められ、これらの吸収の相対強度は等しい。

純度試験

①　融点　本品の融点は、146～151℃でなければならない。

②　被ジアゾ化性物質　本品約1.0ｇを0.01ｇの桁まで量り、その数値を記録し、クロロホルムを加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、更にクロロホルムを標線まで加えて100mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量り、0.1mol／Ｌ塩酸100mLを全量ピペットを用いて加え、振り混ぜた後、水層を十分に分離して第１抽出液とする。さらに、クロロホルム層に0.1mol／Ｌ塩酸100mLを全量ピペットを用いて加え、振り混ぜた後、水層を分離して第２抽出液とする。第１抽出液及び第２抽出液それぞれ40mLを遠心分離して、その上澄液20mLずつを全量ピペットを用いて量って合わせ、試料溶液とする。別に、４－アミノ－２－エトキシ安息香酸メチル標準品を100℃で２時間減圧乾燥し、その約0.05ｇを0.0001ｇの桁まで量り、その数値を記録し、クロロホルムを加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、更にクロロホルムを標線まで加えて100mLとする。この溶液２mLを全量ピペットを用いて量り、クロロホルム８mLを加え、0.1mol／Ｌ塩酸100mLを全量ピペットを用いて加え、振り混ぜた後、以下試料溶液の場合と同様に操作して標準液とする。共栓試験管⑴から⑸までを用意し、試験管⑴に試料溶液５mLを、⑵に標準液１mL及び0.1mol／Ｌ塩酸４mLを、⑶に標準液３mL及び0.1mol／Ｌ塩酸２mLを、⑷